

■児童・生徒の学力の状況

○「全国学力・学習状況調査」の結果によると、多くの生徒は学習の必要性を感じており、学校での時間以外にも土日も含め、学習時間を確保する努力をしている。

○国語・数学・英語のどの項目においても平均正答率が高いが、記述問題に対しては標準的な正答率となっている。

○定期考査等の結果からは、基礎的・基本的な内容が定着している生徒と不十分な生徒の二極化の傾向が見られる。また、授業中も含め個別に支援が必要な生徒も多い。

■授業革新推進に向けた、指導上の課題

○各教科において教科書などから学習内容をインプットするだけでなく、自分なりに思考したことや分かったことをまとめ、他者に伝える機会を増やすことで、自分の考え等を調整する力を育成する必要がある。

○授業においてタブレット端末を使用することだけにとどまらず、自身の考えをまとめたものを互いに見合ったり、評価し合ったりするなど、効率よくアウトプットできる工夫をする必要がある。

■学校経営方針より（学力向上に関わる内容から）

- ・板橋区授業スタンダード S(自己調整型学習)の推進、自主的・自発的な学習態度の育成を図る。
- ・言語活動(読み解く力・書く力)を通して課題解決能力を高め、思考力・判断力・表現力の向上を図る。
- ・個別最適な学びの充実。少人数指導(数学)の実施と ICT 機器(ChromeBook 等)の活用を推進する。
- ・各種学力調査の分析と検証。学期ごとの「学力向上推進週間」の取組みを推進する。
- ・学習の定着を目的とした家庭学習習慣の定着を家庭と連携し、ChromeBook を活用して取り組む。
- ・各種検定の受検促進。学校支援地域本部と連携を十分に生かし、校内を準会場として実施する。

■確かな学力の育成に向けての具体的な方策

視点1 板橋区授業スタンダードの徹底、及び 板橋区授業スタンダードSの取組	視点2 ICT環境の適切な維持と活用 個別最適な学び・協働的な学びの実現	視点3 総合的な学習の時間との連携
・授業の導入で学習のねらいを明確に示し、自力解決・集団解決、まとめ・振り返りの授業展開を徹底する。 ・教員が単元等を選択し、自己選択・自己決定・自己調整を取り入れて学ぶ場面を設定する。	・A Iドリルを活用させ、自分のペースで家庭学習等に活用できる環境を整備・維持する。 ・学習者用デジタル教科書等を活用し、多様な形で互いに学び合える授業づくりを行う。	・環境教育を柱とし、教科横断的に連携させながらSTEAM教育を意識した学習を進める。 ・SDGsの視点を踏まえ、生徒が自分事として考えたことから主体的に課題を発見し、解決に向けた手だてを考える授業を実践する。

■MIRAI SCHOOL いたばし-教育ビジョン2035- -アクションプラン2028-の実現に向けた具体的な取組

保幼小接続・小中一貫教育の推進	豊かな心と健やかな体の育成	多様な教育的ニーズへの対応
・学びのエリアの小中学校での合同研修会や行事を通して、めざす子ども像の実現につなげる。 ・近隣の幼稚園・保育園・小学校での職場体験やボランティアの機会を通じ、生徒自身も育ってきた環境を振り返るとともに、地域全体として幼児・児童・生徒を育成する風土を醸成する。 ・i CS委員会に協力を求め、「これからの板橋」の実現に向けて、第7・8学年は地域清掃や職場体験の取組を通して、第9学年はこれまでに培った力を生かして個人のテーマを追究し、郷土愛を育成し、地域に貢献できる生徒を育成する。	・「特別の教科 道徳」において、「熟議する道徳」を実践し、ChromeBookを活用して、自他の違いを受容することで人権感覚の醸成を図り、自分らしく進むチカラを育む。 ・道徳的判断力の育成に基づく道徳実践力の向上を図る。 ・自他の生命や人権を尊重し、互いの個性を認め合う道徳教育の充実を図り、認め合って生きるチカラを育む。 ・運動会・学習発表会等、学校行事の充実。感動と達成感、成就感、充実感を味わうことのできる取組をする。	・誰ひとり取り残されない学びの保障のために、「居場所づくり」「絆づくり」等、多様な学びの場の確保・連携の充実を図る。 ・個別最適化に配慮した家庭学習に取り組めるよう、また非常時にやむを得ず登校できない生徒に対してもオンラインを活用した課題を配信し、提出できるようにする。 ・学習者用デジタル教科書等を活用し整理・分析した情報を、プレゼンテーションソフト等にまとめ、多様な形で互いの考えを共有し、表現する力を育成する。